

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和6年6月27日

岩手県知事 達増 拓也 様

提出者

住 所 岩手県宮古市赤前第1地割28番地

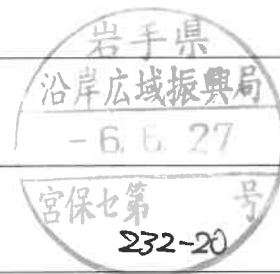
氏 名 長沢産業株式会社

代表取締役 長沢 アヤ

電話番号 0193-67-3638

循環型地域社会の形成に関する条例第9条の2第1項の規定により、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	長沢産業株式会社 工事現場
事業場の所在地	岩手県宮古市赤前第1地割28番地
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	建設業
② 事業の規模	工事完成売上高7億
③ 従業員数	21名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	木くず（枝、根、解体材）→委託処分（破碎）（再利用） がれき類（コンクリートがら）→委託処分（破碎）（再利用） 廃プラスチック類→委託中間処理（選別・圧縮）（熱回収） →委託最終処分（安定型埋立） 混合（紙くず、繊維くず）→委託中間処理（選別）（熱回収） →委託最終処分（管理型埋立）



（A4）

※ この様式は、前年度の産業廃棄物の発生量が500トン以上1,000トン未満の事業所が対象です。

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

専務取締役兼工事部長（廃棄物管理責任者）

現場代理人（廃棄物処理等責任者）

産業廃棄物担当者

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	がれき類他
	排 出 量	494.72 t	196.87 t
	(これまでに実施した取組) 公共工事で主に伐採作業から木くずが発生した。木くずは委託業者により破砕処理され木材チップとして再利用される。 がれき類（コンクリートがら）、廃プラスチック類も公共工事から発生した。コンクリートがらは委託業者により破砕され再生砕石として再利用される。廃プラスチック類は委託中間処理施設で選別焼却され熱回収される。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	がれき類他
	排 出 量	400 t	100 t
	(今後実施する予定の取組) 今後も公共工事で溪流保全工事に伐採作業があるので、木くず（枝・根）が発生する予定である。可能な限り再生利用業者へ委託し産業廃棄物の削減に努める。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 木くず、コンクリートがらともに、再生利用している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今後も同じである。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	がれき類他
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 自ら再生利用は行っていない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	がれき類他
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 今後も自ら再生利用する予定はない。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	がれき類他
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 自ら中間処理は行っていない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	がれき類他
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） —		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	がれき類他
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	がれき類他
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) —		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	がれき類他
	全 処 理 委 託 量	494.72 t	196.87 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	493.96 t	193.19 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0.76 t	3.68 t
	(これまでに実施した取組) 木くず、がれき類（コンクリートがら）については、再生利用業者へ処理委託している。 廃プラスチック類については、認定熱回収業者以外の者に処理委託している。		

(第5面)

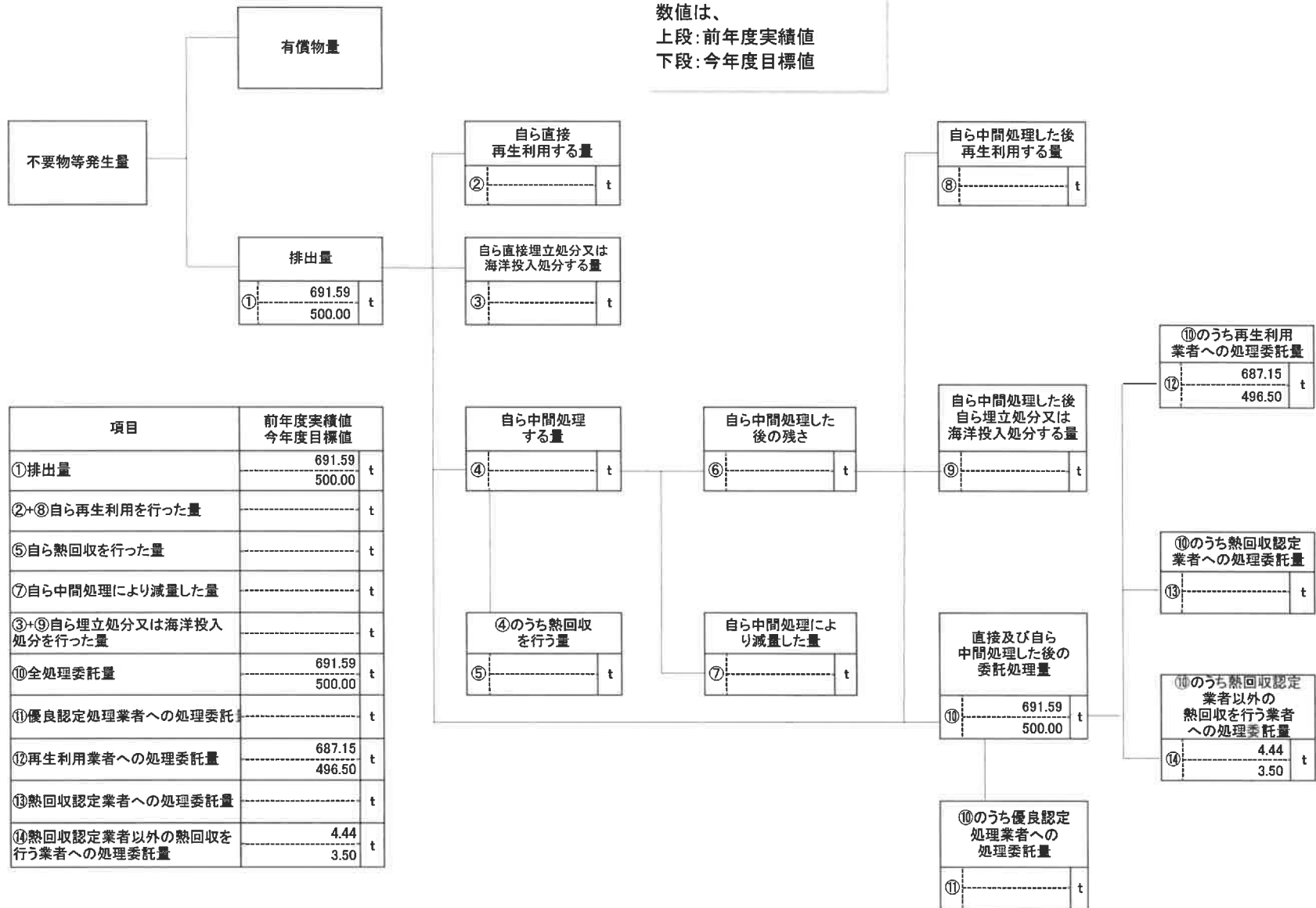
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	がれき類他
	全 処 理 委 託 量	400 t	100 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	400 t	96.50 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	3.50 t
	(今後実施する予定の取組) 木くず、がれき類（コンクリートがら）については、再生利用業者へ継続する。 廃プラスチック類については、熱回収を継続する。		
※事務処理欄			

備考

- 1 この様式は、前年度の産業廃棄物の発生量が500トン以上1,000トン未満の事業所ごとに1枚作成し、循環型地域社会の形成に関する条例施行規則第3条の2の基準に従って作成した産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画に添えて提出すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

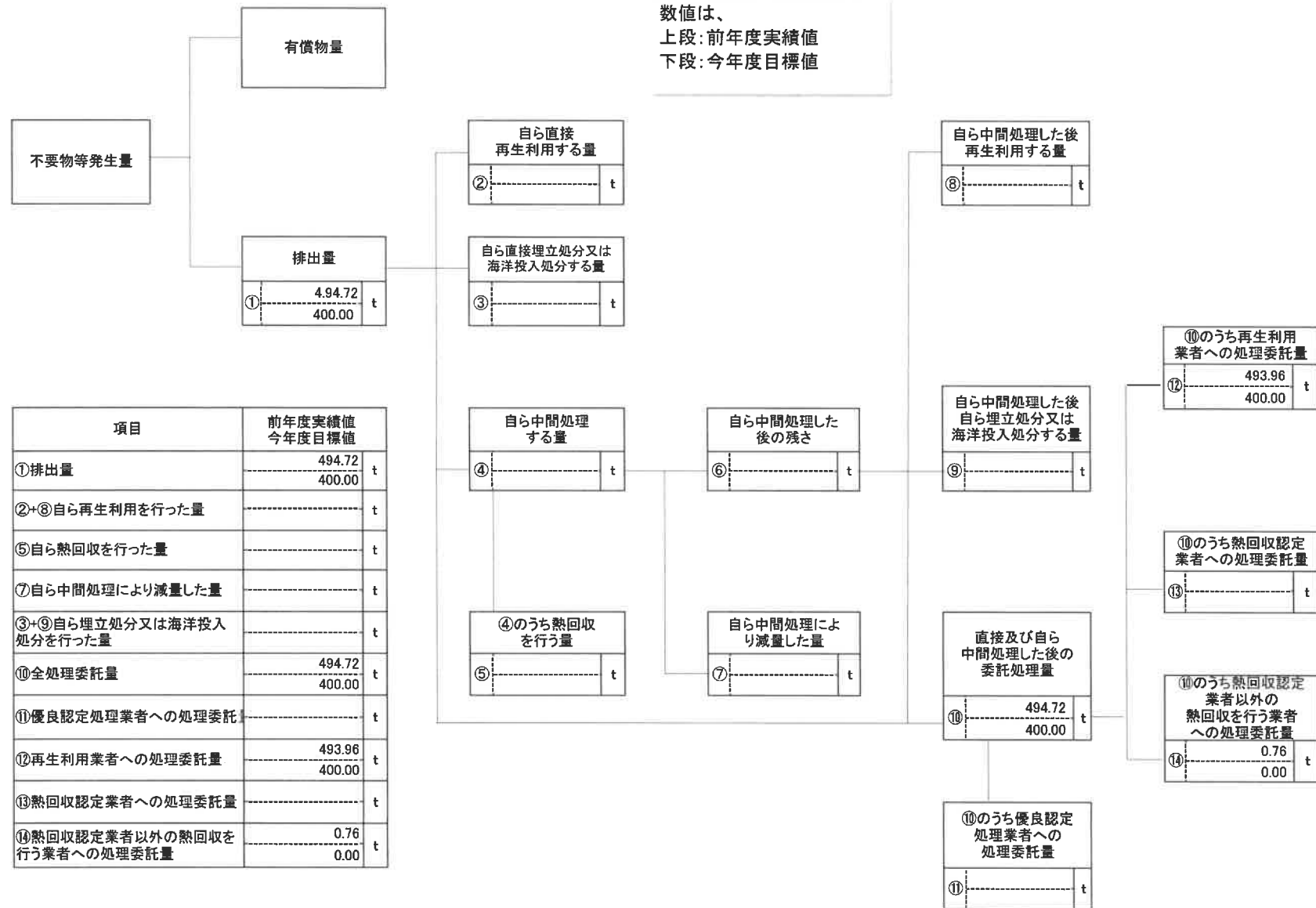
(産業廃棄物の種類： 合計)

数値は、
上段：前年度実績値
下段：今年度目標値



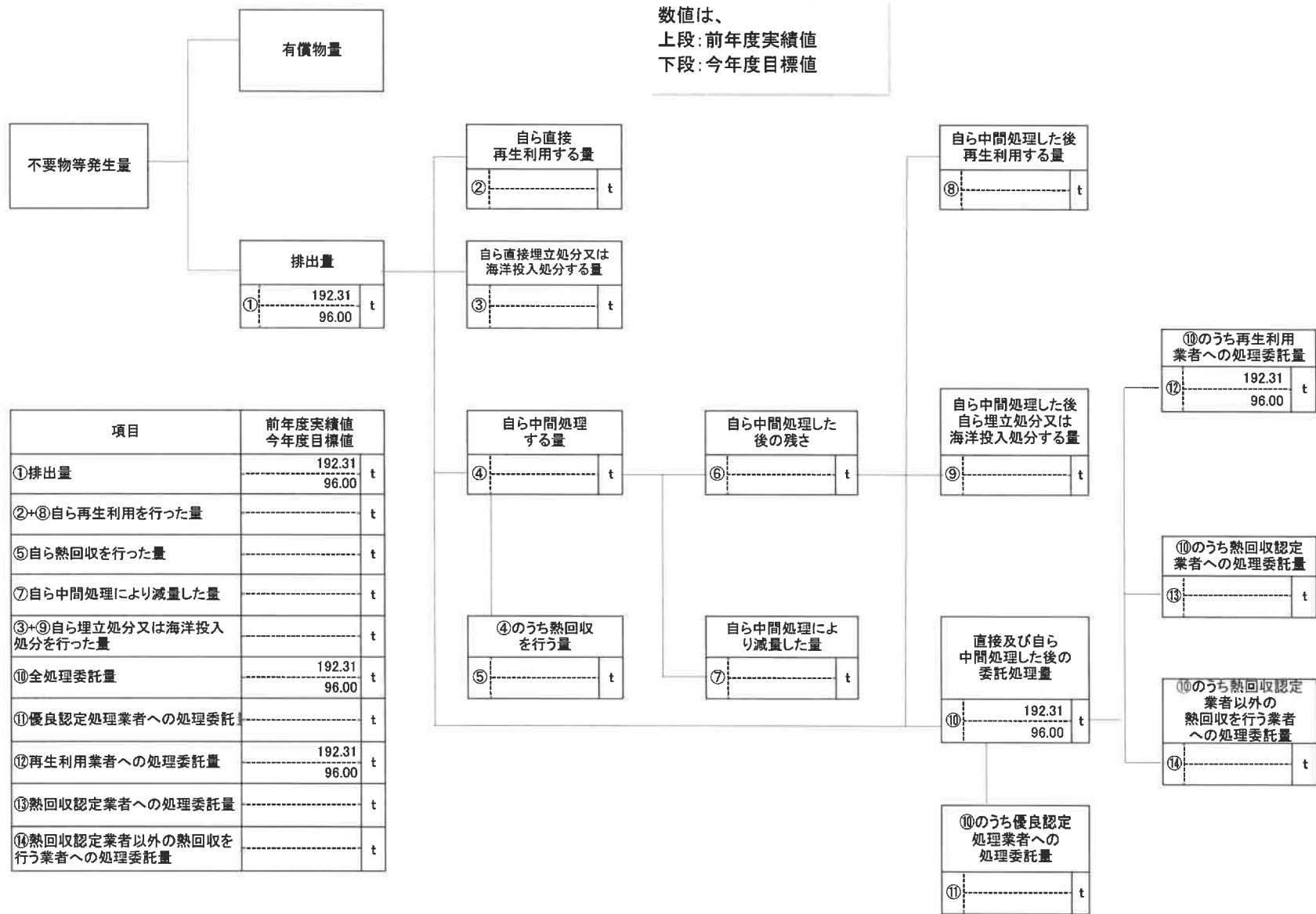
(産業廃棄物の種類: 木くず)

数値は、
上段: 前年度実績値
下段: 今年度目標値



(産業廃棄物の種類: がれき類)

数値は、
上段: 前年度実績値
下段: 今年度目標値



(産業廃棄物の種類: 廃プラスチック類他)

数値は、
上段: 前年度実績値
下段: 今年度目標値

